

一粒の麦 場面五

女子教育の道へ

女性私塾で助教を務める吟子の所へ。
松本荻江から学問を勧められる。



上京した吟子は、国学者であり、かつ皇漢医である井上頼圀の私塾神習舎に入ります。頼圀は、後に国学の大家となる人物です。その翌年には、甲府に女性私塾の設立を目指していた内藤満寿子の求めにより、助教として甲府に赴きます。この後、吟子は再び東京にもどり、女子高等師範学校（現 お茶の水女子大学）の第1期生として入学し、首席で卒業しました。

女子高等師範学校幹事の永井久一郎教授は医学校への女子の入学が難しいことを知っていましたが、彼女の意志が固いことをみて、石黒忠恵を紹介し、石黒は吟子のために尽力し、医学校好寿院への入学が許可されました。吟子は、男尊女卑の屈辱を受けながら。3年間の修学を終え、明治15年（1882）、優秀な成績で好寿院を卒業しました。。



▶ 好寿院

資料提供 (株)現代ぶろだくしょん

写真提供 (株)トライストーン・エンタテイメント

引用元 映画『一粒の麦 荻野吟子の生涯』facebook / Imgrum#荻野吟子photos&videos
若村麻由美 mayumi wakamura official

パネルその四

写真と解説はイメージです。史実と異なる場合もあります。

一粒の麦 場面六

医術を学ぶ

男装して女人禁制の医学校に通う吟子。
苦肉の策で男装して登校したが、
差別を受けながらの、厳しい毎日。

